

五郎地区防災計画

令和 7 年 3 月 作成
五郎地区自主防災組織

目次

1. 目的	P 1
2. 自主防災組織	P 1
3. 地域の特性	P 1
4. 活動内容	P 1
5. 平常時の取り組み	P 4
6. 災害時の取り組み	P 6
7. 避難行動要支援者等の避難支援	P 7
資料 1 五郎地区自主防災組織図	P 9
資料 2 五郎地区自主防災備品一覧	P 10. 11
資料 3 五郎地区ハザードマップ	P 12
資料 4 広報おおず 2024 年 6 月号	P 13. 14

1.目的

この組織は、五郎地区内に火災、地震、津波、台風、大雨等で大規模な災害が発生したとき、住民の安全とその被害を最小限にとどめるため、秩序ある行動がとれるよう、協力体制を定めるものである。

2.自主防災組織

自主防災組織とは、『自分たちの地区は、自分たちで守る』ため、地域全員の一人一人の力を結集し、地域全員の力で災害による被害を最小限にくい止め、防災のために結集する組織である。

3.地域の特性

五郎地区は大洲市の中心より肱川を挟んで北側に位置し、玉川地区から五郎駅周辺の大谷は肱川が増水になると樋門操作で内水の上昇で住宅、農地の冠水はたびたび発生している。

4.活動内容

防災活動は、災害が起きる前と起きた後によって異なることから、活動項目を平常時と災害時の2つに分けて作成する。

平常時では、「災害は必ず起きる」という想定のもと、災害を減らすことを主目的として活動項目とする。

災害時では、災害の種類・状況に応じて、「誰が、何を、どれだけ、どのようにすべきか」整理し、体制等を明確にする活動項目とする。

(1)組織編成及び役割分担

災害発生時の応急活動を迅速かつ効果的に行うため、また、平常時の活動もより円滑に行うため、次のとおり防災組織を編成する。

連絡網については、毎年更新する。

構成

この組織は、五郎自治会運営審議委員、消防団員、愛媛たいき農業協同組合、既存団体の構成員、並びに自主的に参加を希望する住民をもって構成する。

組織（機構）

組織の名称は、五郎地区自主防災組織とし、次の各班をもって組織し、組織図は資料1のとおりとする。

- ① 本部班
- ② 情報班
- ③ 災害応急対策班
- ④ 復旧支援対策班
- ⑤ 給食・給水班

班名	平常時の活動	災害時の活動
本部班	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の運営指導 ・地区防災計画、訓練計画の樹立 ・防災知識の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班員の動員 ・防災関係機関との連絡調整 ・各班との連絡調整
情報班	<ul style="list-style-type: none"> ・防災知識の普及 ・地区内の災害発生危険場所の把握 ・災害弱者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区住民への支援要請 ・各種情報の収集、伝達、広報活動 防災関係機関に対する災害情報の通報 ・避難所設置に伴う勧告の伝達
災害応急対策班	<ul style="list-style-type: none"> ・初期消火、応急手当等の訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・負傷者等の救出活動と応急手当等の救援活動 ・避難誘導 ・安全な避難場所の指示 ・災害弱者の避難の手助け
復旧支援対策班	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所の周知と現状の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所業務の支援
給食・給水班	<ul style="list-style-type: none"> ・炊き出し及び給水訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・食料等の配分、炊き出し等の給食、給水活動

(2)役員

○五郎地区自主防災組織に次の役員を置く。

- ① 本部長 1 名
- ② 副本部長 2 名
- ③ 班長 各班 1 名
- ④ 副班長 各班 若干名

○役員は、次の役職をもって充てる。

- | | | | |
|---|------|------------|---------------------|
| ① | 本部長 | 五郎自主防災組織会長 | |
| ② | 副本部長 | 五郎自治会長 | |
| | | 五郎自治会副会長 | |
| ③ | 班長 | 本部班 | 五郎自主防災会長 |
| | | 情報班 | 五郎自治会行政連絡部会長 |
| | | 災害応急対策班 | 五郎消防団部長 |
| | | 復旧支援対策班 | 五郎振興部会長 |
| | | 給食・給水班 | 五郎生涯学習部会長 |
| ④ | 副班長 | 本部班 | 五郎自治会副会長 |
| | | | 自治会顧問 |
| | | | 自治会監査 |
| | | 情報班 | 各区長 |
| | | | 民生児童委員 |
| | | | 五郎互郷会 |
| | | | 任用職員 |
| | | 災害応急対策班 | 五郎消防団後援会会計 |
| | | | 五郎青年団長 |
| | | | 交通安全協会五郎支部長 |
| | | 復旧支援対策班 | 野菜出荷組合五郎支部長 |
| | | | 防災士 |
| | | | 各組長 |
| | | 給食・給水班 | 食生活改善推進協議会五郎婦人部 |
| | | | 五郎生涯学習部副会長 |
| | | | 五郎愛美園園長 |
| | | | 喜多小学校 P T A 五郎地区理事 |
| | | | 大洲北中学校 P T A 五郎地区理事 |

○任期

役員の任期は、その職にある期間とする。

○運営

- ① 事務所は五郎コミュニティセンターに置き、平常時の組織運営を行う機関として、組織運営会議を設置する。

- ② 組織運営会議は、毎年 1 回本部長が招集し、役員をもって構成する。
- ③ 非常時における組織編成は、災害の状況により本部長が招集し編成する。

(3)避難所

五郎地区避難所として五郎コミュニティセンター以外で利用できる施設

玉川集会所 宇都宮神社 城願寺 3 区集会所
4 区集会所 慶雲寺集会所 大谷集会所

5.平常時の取り組み

災害は、「必ず起きる」「いつ起こるかわからない」という想定のもと、いざという時のために、地域や家庭で防災や減災について学習し、話し合いを行う訓練や活動を実施する。

「起こった時」を想定した訓練等に積極的に取り組むため、連絡網や組織の体制づくりを図る。

(1)防災知識の普及・啓発

災害時に被害を最小限に食い止めるためには、五郎地区住民全員が防災に関する正しい知識を持っている必要がある。そのために、自主防災組織が中心となり、あらゆる場面で住民に知識や情報を伝える機会を増やすように務める。

また、防災は生き抜くことが基本であり、地域住民の連携がなければ困難であることを認識し、その認識を住民一人ひとりが理解し災害に強い地域に一步近づくことができるように努める。

(2)家庭内対策の推進

- ・ 家族間で安否確認手段や、災害時の行動等の確認
- ・ 非常用持ち出し品の準備
- ・ 避難場所、避難路の確認
- ・ 緊急連絡カードの作成 など

(3)地域の災害危険の把握

日頃から地域に潜む危険個所の把握は、災害に備えるうえで重要なこと

であり、情報を共有しておくことが必要である。（危険個所のマップを作成）

(4)避難行動要支援者対策

災害における死者の内、高齢者の割合は、阪神・淡路大震災では 54.1%、東日本大震災では 66.1% となり、被災者の大半は高齢者であることから、災害時における高齢者や障害者への支援対策は、重要な課題である。

そこで、地域内の要配慮者（災害時避難行動要支援者）を把握し、状況調査を行い、災害が起きた場合に避難する際の支援者等を予め依頼するなどの対策を講じる。

このような支援者対策を実践する場合に、市の担当部局（社会福祉課、高齢福祉課、こども家庭センターなど）との情報共有、民生委員・社会福祉協議会等との連携、消防・警察等との連携などが重要であり、普段から訓練への参加や交流 を深めておく必要がある。

(5)防災資機材等の整備

防災資機材は、災害発生時に使用すると想定されるものを緊急性や使用頻度を考慮して計画的に順次整備する。地区で必要な防災資機材を把握・整備し、訓練等に取り入れ、日ごろから点検や使い方を確認する。

※資機材 資料 4 参照

(6)備蓄物資の確保

災害の基本である「自分の身は自分で守る」ことから、家庭における備蓄は、7 日分を備え、その内 3 日分は非常持出用として準備するものとし、啓発に努める。

また、大規模災害時には、備蓄を持ち出すことが困難な場合も予想されることから、避難者への初期対応に自主防災組織による備蓄（アルファ米・非常用保存水等）を計画的に整備していく。

※令和 5 年度 保存期間 5 年

飲料水・アルファ米・カンパン・ビスケット等を保管

(7)防災訓練

災害に直面した時に、慌てず適切な行動をとり判断することは難しい。防災訓練は、万が一の事態においても落ち着いて、的確に対応するための欠かせない活動であり、地域住民に積極的な参加を呼び掛けて、繰り返し訓練することが必要である。

五郎地区は、肱川流域にあり、冠水や浸水、また急斜面の土砂災害警戒区域が多いため、それぞれの災害を想定した訓練・避難経路、避難場所の確保などの訓練を実施する。

- ・避難訓練（避難行動要支援者の支援を含む。）
- ・情報収集・伝達訓練
- ・消火訓練
- ・救出・救護訓練
- ・給食・給水訓練
- ・その他（防災クイズ・防災マップ作成・災害図上訓練など）

(7)人材育成

防災に関する知恵の伝達や地域のリーダーの育成をしていくことは、地域防災力を高め、維持していくために大変重要となる。

そこで、消防団や各種団体、学校等と連携した防災教育や防災訓練、防災士等の資格取得講座の受講など、積極的な地域の人材育成に努める。

6.災害時の取り組み

災害時の組織体制（班体制）ごとの役割分担に応じて、連携・協力しながら、次の項目を中心に活動する。

(1)情報収集・伝達活動

- ・あらかじめ緊急連絡網を定め、避難情報や安否確認等を迅速に行えるようにする。
- ・気象情報、行政等の公共機関から正しい情報を収集し、必要に応じて地域住民に速やかに伝達する。
- ・区長、消防団や住民からの被災状況等を収集する。

(2)避難誘導活動

行政からの「高齢者等避難」「避難指示」「緊急安全確保」の発令、気象庁からの「特別警報」や土砂災害の事前兆候等の情報による避難行動を開始する場合、避難者が安全に避難できるように、避難路の確認や危険箇所等における誘導を行う。

(3)救出・救護活動

- ・情報活動と連携し、災害地域及び災害の恐れのある地域等の見回り等警戒に努める。

- ・被災情報が入ったり、被災家屋・被災者等を発見した場合は、現場周辺状況を確認し、安全の確保をした上で、救出等の活動を行う。

(4)出火防止・初期消火活動

- ・各家庭において、地震等により避難する場合、ガスの元栓を締める、ブレーカーを落とすなどの出火防止に努める。
- ・火災が起き場合、初期の消火活動を協力して行うこととする。

(5)避難所開設・運営

- ・避難所開設は、市職員が配置され開設することになっているが、大規模災害等により市職員の配置が遅れる等の事態も想定し、予め定められた地域住民が、避難所の安全（外観・内観の目視）を確認し、開設する。
- ・避難住民の健康状況の確認をするとともに、避難者台帳を整理し、安否確認情報や避難者状況の報告に活用する。
- ・避難者の状況や数は、備蓄物資の配布等に必要なため、各班で情報の共有に努める。
- ・災害の状況により、避難者生活が長期化していくことも考慮し、避難所の運営は、できる限り避難住民が行えるように、リーダーを定め、役割分担等を行うようにする。

(6)炊き出し等

- ・発災当初は、市の備蓄・地域の備蓄・個人の備蓄等を配布し、生命の維持に努める。（配布の際は、食物アレルギー等に注意すること）
- ・翌日以降は、予め地域における米や野菜の提供者を決めておき、食料の確保を行い、炊き出し班による配給をできる限り行うようにする。
- ・炊き出し班のみが従事することなく、避難住民も含めて、ローテーション等を作成し、一人当たりの負担を軽減することとする。

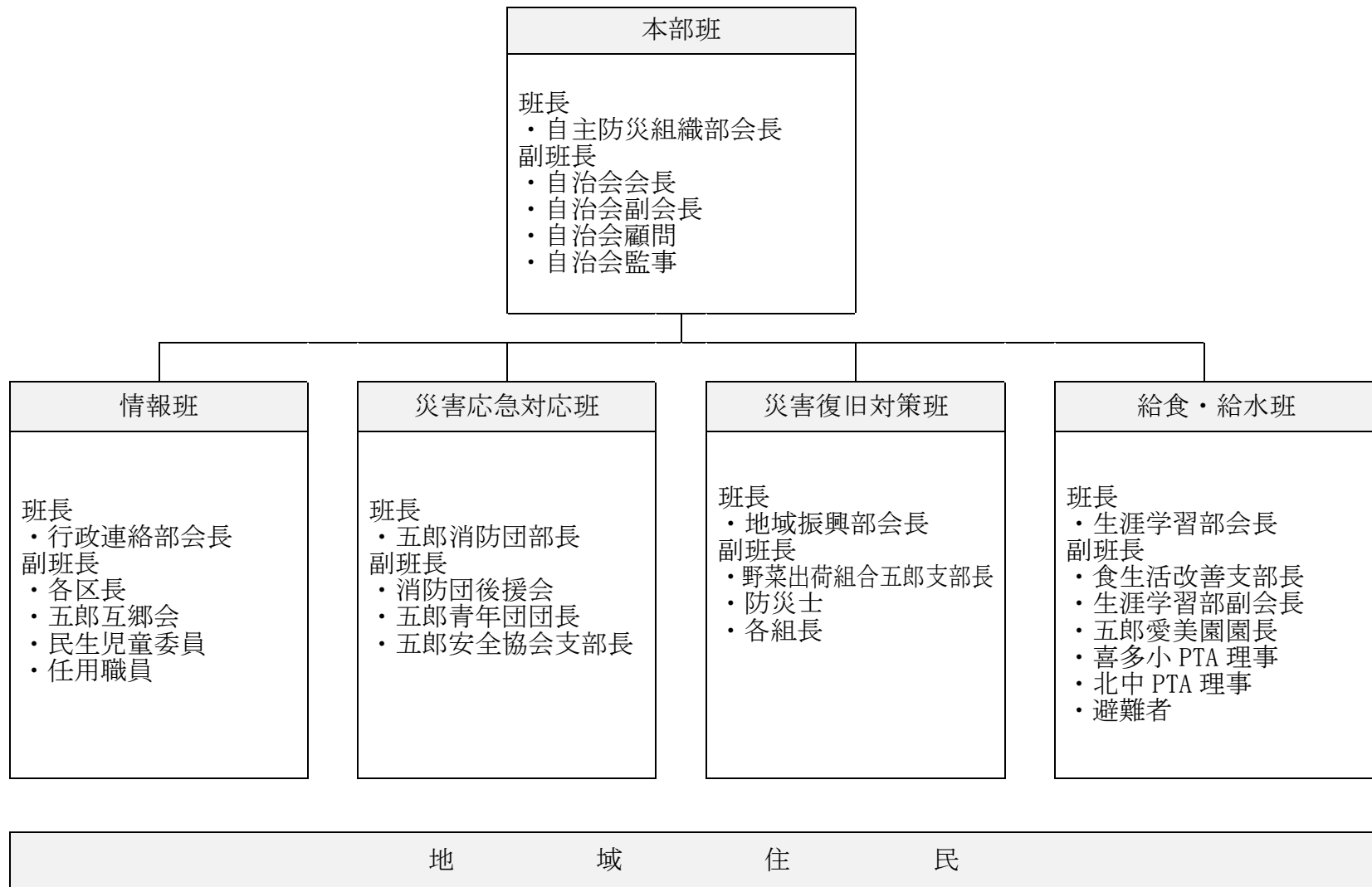
7.避難行動要支援者等の避難支援

災害時に大きな被害を受けやすいのは、高齢者や障害者、子供などの助けを必要とする避難行動要支援者（災害時用援護者）である。こうした避難行動要支援者を災害から守るため、みんなで協力しながら支援を行う。

- ・アンケート等により予め把握している情報を基に各区において、避難行動要支援者の確認をして、避難支援者を中心に各地区の住民が協働で支援を行う。

- ・災害状況・被災地域及び被災する恐れのある地域などの情報を入手した場合、すぐに避難支援者に連絡する。
- ・地域住民から避難に関する支援、協力等の要望があった場合、避難誘導班等と連携して対応する。
- ・避難行動要支援者等の安否について、避難支援者や緊急連絡網等を利用して確認を行う。

五郎地区自主防災組織図



資料 2

五郎地区自主防災備品一覧

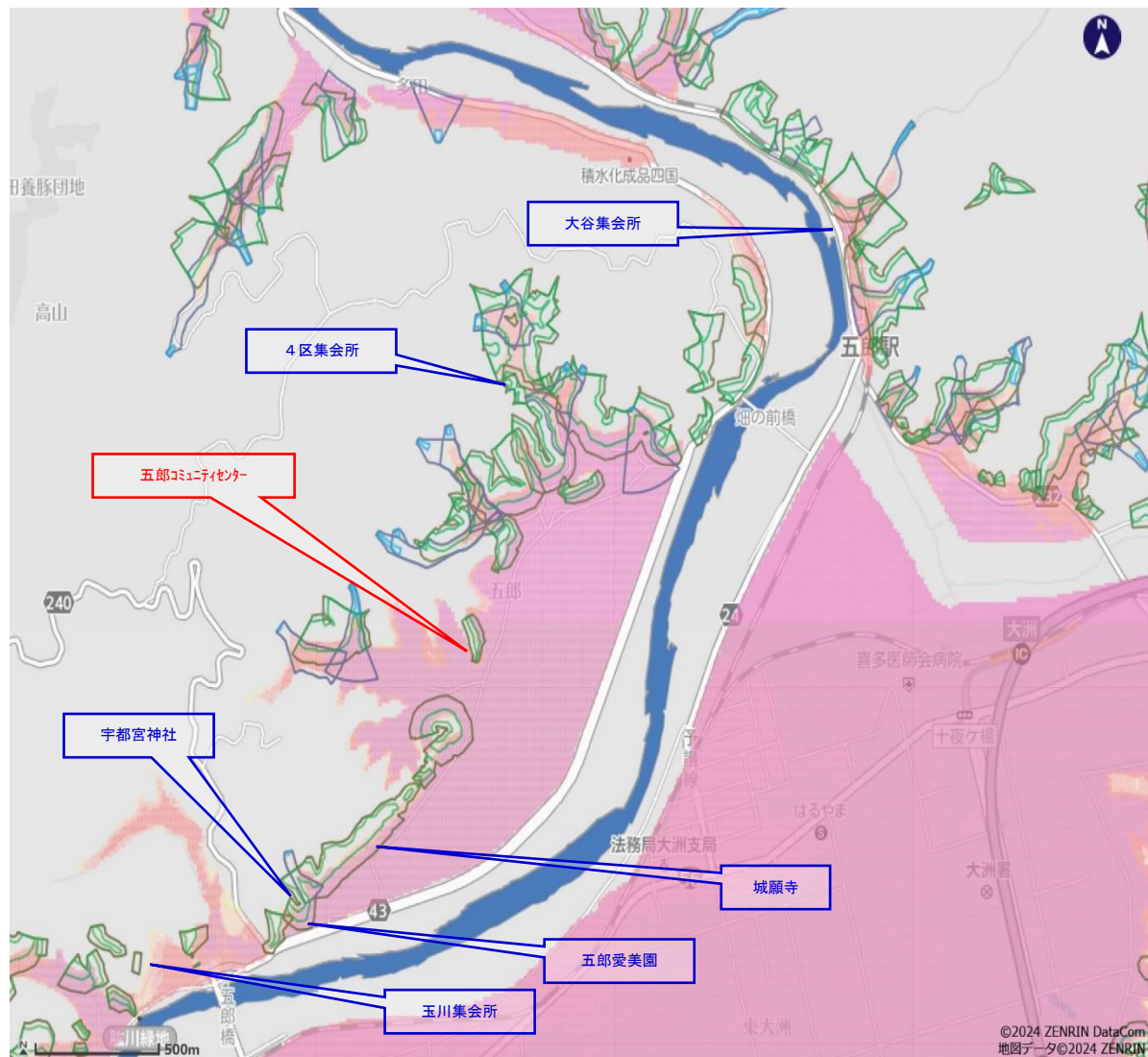
区分	施設・備品名	個数	設置年
情報 連絡用	電池メガホン	3 個	H 1 4
	懐中電灯	2 0 個	H 1 4
	投光器セット（投光器・三脚・コードリール）	2 セット	H 1 4
	発電機 ホンダ X6	1 台	H 1 4
	発電機 ホンダ Eu16i	1 台	H 1 9
	TOA 車載用アンプ・スピーカー・バッテリー	1 セット	H 2 1
	発電機	1 台	H 2 8
	投光器（LED ライト 2 灯・延長コード・三脚）	1 セット	H 2 8
水 防 用	防水シート 360*540	2 0 枚	H 1 4
救 出 救 護 用	防護ヘルメット 1 1 8 型	3 0 個	H 1 4
	災害多人用救急箱 5 0 人用	2 箱	H 1 4
	担架四つ折り	2 個	H 1 4
	災害救助用毛布 140*190	1 5 枚	H 1 6
	災害用備蓄用パック毛布	3 0 枚	H 2 2
	簡易トイレ（テント式便器セット・便袋 20 枚）	1 セット	H 2 8
	ゴムボート 4 人乗り用	1 艇	H 3 1
	船外機 2 馬力	1 機	H 3 1
	エアーポンプ	1 個	H 3 1
備 食 蓄 料	保存水 5 0 0 ml	4 0 0 本※	R 4
	保存水 2 l	1 0 0 本※	R 4
	カンパン	1 0 0 缶※	R 4
	ビスケット	1 0 0 缶※	R 4
	備蓄パン	1 0 0 缶※	R 4
	アルファ米	1 0 0 食※	R 4
調 理 器 具	ガス炊飯器 4 升炊き	1 台	H 1 6
	ガスバーナー 鋳物ガスコンロ	1 基	H 1 6

区分	施設・備品名	個数	設置年
	屋外用コンロ 鋳物コンロ	1 基	H 1 6
	アルミ料理用鍋 4 2 cm	1 個	H 2 4
	ガス炊飯器 PR101DSS	1 台	H 2 4
	厚手サクラ蓋 4 9 cm	1 個	H 2 4
	特性平釜	1 個	H 2 5
	お玉	2 個	H 2 5
	大型コンテナ	6 個	H 2 8
	はんぼう	1 個	H 2 8
	ガスコンロ (大小)	2 基	H 2 8
	大鍋	2 個	H 2 8
	モノブタ	1 0 個	H 2 9
	リアカー	1 台	R 1
そ の 他	テント 1. 5*2 間	1 張	H 1 4
	資材用収納ロッカー	1 個	H 1 4
	フレームテント3号 2*3 間	1 張	H 1 6
	ワンタッチテント TNT2833	1 張	H 2 1
	資材用収納ロッカー	1 個	H 2 7
	備蓄倉庫	1 基	H 2 8
	テント	1 張	H 2 9
	テント横幕	2 張	H 3 0
	避難所用間仕切り 4 部屋セット	1 張	R 1
	空気清浄機	3 台	R 2
	携帯用蛍光ランプ	各世帯	R 4

※内半分は防災センターへ保管

資料 3

五郎地区ハザードマップ



土砂災害	【土石流】	特別警戒区域	洪水浸水想定区域	氾濫川が氾濫した場合に想定される水深です。	
	【急傾斜地】	警戒区域		20.0m以上	1.0m以上～3.0m未満
	【地すべり】	特別警戒区域		10.0m以上～20.0m未満	0.5m以上～1.0m未満
		警戒区域		5.0m以上～10.0m未満	0.3m以上～0.5m未満
		警戒区域		3.0m以上～5.0m未満	0.3m未満

Information

出水期に備えましょう

6月からは、集中豪雨や台風により、河川の増水や土砂災害の危険が高まる時期となります。

出水期に備えて、情報の収集方法や避難場所・避難所の確認をしておきましょう。

避難情報の種類

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報
5 災害発生 または切迫	命を守るための最善の行動をとる	緊急安全確保
4	全員避難	避難指示
3	高齢者、障がい者、乳幼児などとその支援者は避難、他の住民は準備	高齢者等避難
2	災害に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認	洪水注意報 大雨注意報
1	防災気象情報などの最新情報に注意するなど災害への心構えを高める	警戒級の可能性 (早期注意情報)



市ホームページ
(避難情報)



市ホームページ
(避難所)

避難情報の入手方法

大洲市災害情報メール

大洲市から高齢者等避難、避難指示などの避難情報や避難所開設情報を配信します。

大洲市災害情報メールの登録方法

- ① ozubosai@yb74.asp.cuenote.jpへ空メールを送信
※宛先に直接入力するか、下記二次元コードを読み取ってください。
- ② 返信された仮登録メールに書かれたURLにアクセス
- ③ 登録フォームに氏名を入力し、「登録」ボタンを押す。
- ④ 確認画面が表示されるので、再度「登録」ボタンを押す。
- ⑤ 登録完了メールが届いたら、登録完了



愛媛県防災メール

地震、津波、気象警報・注意報、土砂災害警戒情報や市町からの避難情報、避難所開設などの防災情報や緊急のお知らせを、愛媛県がメールで配信します。



詳しくは県ホームページをご覧ください。

県ホームページ

防災行政無線放送

屋外のスピーカーから放送をします。雨や風が強く、音が聞き取りにくい場合は、次のサービスをご活用ください。

▷コスモキャストアプリ

スマートフォンにアプリを入れて、郵便番号を登録するだけで、災害など緊急時の放送を聞くことができます。お使いのスマートフォンがAndroidの場合はGooglePlayストアから、iOSの場合はAppストアから「コスモキャスト」と検索するか、下記二次元コードを読み取り、インストールしてください。

※ただし、平常時の放送は聞くことができません。

Android



iOS



▷防災行政無線テレホンサービス

フリーダイヤルで聞き直しができます。

☎0120(00)8863 (24時間通話料無料)

その他の伝達方法

- ・テレビ、ラジオなどの字幕放送
- ・緊急速報メール
- ・市ホームページ ほか



市ホームページ
(避難情報の入手方法)

【問い合わせ先】

危機管理課防災係 ☎0893(24)1742

風水害における避難情報発令基準を見直します

肱川河川激甚災害対策特別緊急事業の完了に伴う避難判断水位・氾濫危険水位の変更と鹿野川ダム操作規則の変更により、令和6年6月1日から大洲市での風水害災害における避難情報発令基準を下記のとおり見直します。



変更後の避難情報発令基準

地 区	基準地点	発令種類	基 準
肱 川	鹿野川ダム放流量	高 齢 者 等 避 難	1,500m ³ /sの放流が予測されるとき
		避 難 指 示	1,500m ³ /sの放流が開始され、その後緊急放流が予測されるとき
		緊 急 安 全 確 保	災害が発生または切迫している場合
大 川 菅 田	大川水位観測所	高 齢 者 等 避 難	5.2m
		避 難 指 示	6.45m
		緊 急 安 全 確 保	災害が発生または切迫している場合
柚 木 久 米 只 越 五 郎 平 東大洲 松ヶ花 春 賀 八多喜 伊州子 多 田 白 滝 豊 中 大 和 上老松 長 浜 沖 浦	大洲第二水位観測所	高 齢 者 等 避 難	5.4m
		避 難 指 示	7.1m
		緊 急 安 全 確 保	災害が発生または切迫している場合
新 谷	新谷水位観測所	高 齢 者 等 避 難	2.65m
		避 難 指 示	3.15m
		緊 急 安 全 確 保	災害が発生または切迫している場合

※上記の基準にかかわらず、鹿野川ダムにおいて緊急放流が実施されるなど水位の急な上昇が予測されるときは、避難指示を発令します。

【問い合わせ先】

危機管理課防災係 ☎0893(24)1742

